

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は増加の動きに一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

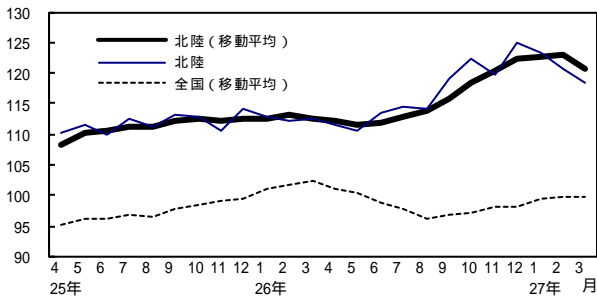
	前回 (平成 27 年 2 月)	今回 (平成 27 年 5 月)	
鉱工業生産	増加	増加の動きに一服感	
住宅建設	大幅に減少	大幅に増加	

1 . 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、増加の動きに一服感がみられる。

1 ～ 3 月期には、電子部品・デバイスは、電子部品が出荷先の中国工場の稼働日数が少なかったことや新機種発売の端境期となった影響などから減少した。化学は、医薬品が前期の反動の影響などで減少した。はん用・生産用・業務用機械は、自動車向け金属工作機械が北米向けが好調な影響などから増加した。繊維は、衣類が国内向けが不調な影響などから減少した。金属製品は、軽金属板製品及び建築用金属製品が住宅向けが不調な影響などから減少した。

鉱工業生産指数



(備考) 1 . 22 年 = 100、季節調整値。最新月は速報値。
2 . 全国及び北陸の太線は後方 3 か月移動平均。

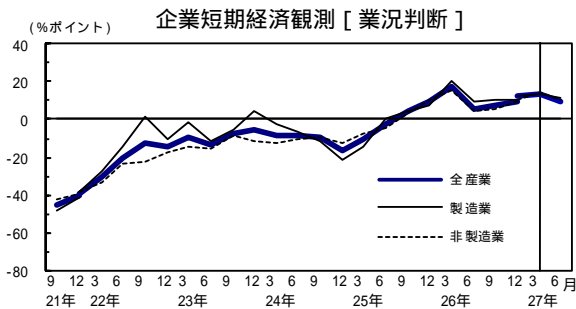
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	20.8	26.9	2.9	0.7	3.8	6.1
化学	13.5	6.9	5.7	5.5	4.3	2.1
はん用・生産用・業務用機械	12.7	0.9	4.7	6.6	8.0	8.3
繊維	8.4	0.3	1.8	1.4	1.0	0.5
金属製品	6.0	3.2	2.0	2.6	3.5	5.7
鉱工業	100.0	5.6	1.4	1.4	2.0	2.0

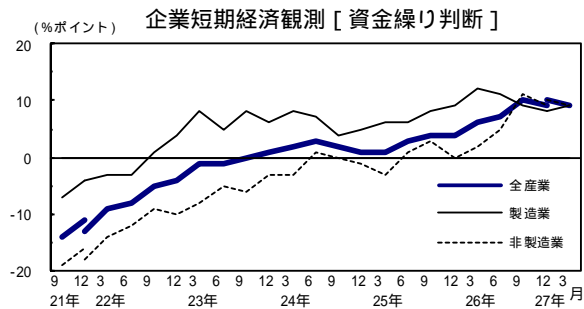
(備考) 1 . 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。
2 . 1 ～ 3 月期、3 月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

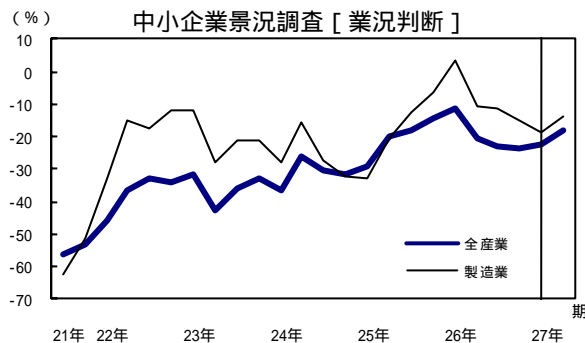
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年6月は予測。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。

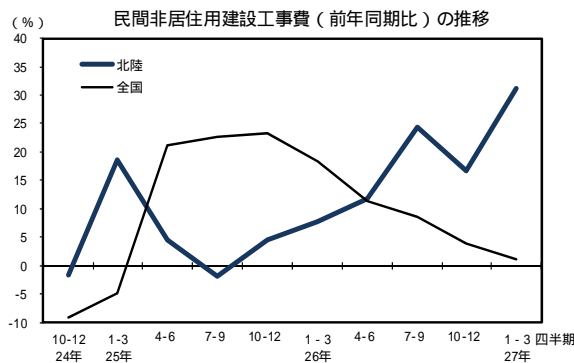


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査 (4 月) [企業動向関連 (現状)]

「工事の見積りや引き合いに対して、施工技術者が不足しているため施工能力が限界状態で、現状維持が手一杯の状況となっている (建設業) 」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (3 月調査)]

(前年度比、 %)

	26年度実績見込み	27年度計画
全産業	23.7(2.5)	2.8
製造業	39.2(5.4)	5.8
非製造業	5.5(2.5)	1.9

(備考)() は前回 (12 月) 調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.1%減、2月は同0.8%増、3月は同0.9%増となった。

大型小売店販売額

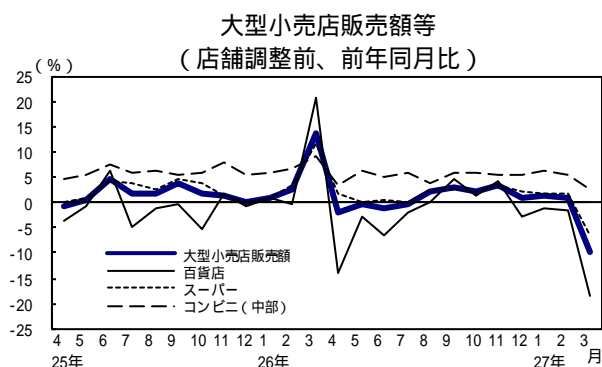
百貨店については、1月は、飲食料品は底堅く推移したものの、年初の大雪の影響により来店客数が減少したことなどから、衣料品が振るわず前年を下回った。2月は、飲食料品は底堅く推移したものの、消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動がみられたことや、店舗改装による一部閉店の影響により前年を下回った。3月は、前年の消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動により前年を下回った。

スーパーは、衣料品、その他製品が不調で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

北陸地域の家計動向関連DIは、59.3となり前月より3.0ポイント上昇した。

「北陸新幹線が開業して1か月以上経過し、観光客が増加している。また、ビジネスでも人が増加している状況である。観光スポットや夜の繁華街でも客は増加している。平日でも人が多い(タクシー運転手)」など、「良くなっている」とする回答が増加した。

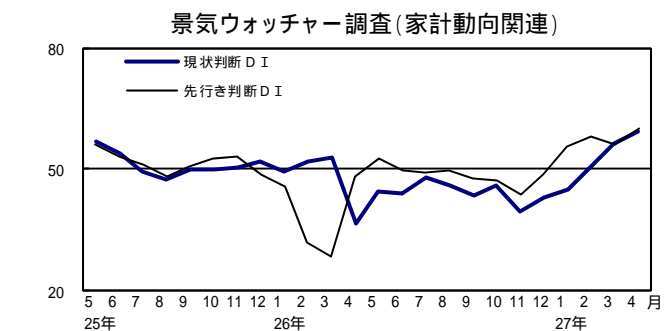
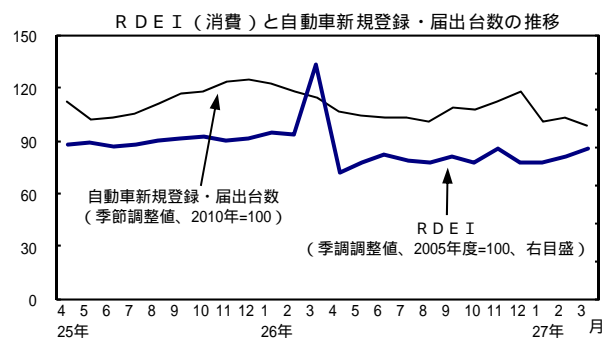


	27年1-3月	27年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.3	0.1	0.8	0.9
大型小売店(*2)	2.7	1.3	1.1	9.7
百貨店(*2)	8.1	1.0	1.5	18.6
スーパー(*2)	1.1	1.9	1.8	6.7
コンビニ(*2)	4.6	6.3	5.3	2.5
乗用車(*3)	13.0	18.0	12.1	11.6
(季節調整値)(*3)	10.6	14.5	1.9	3.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%) コンビニは中部

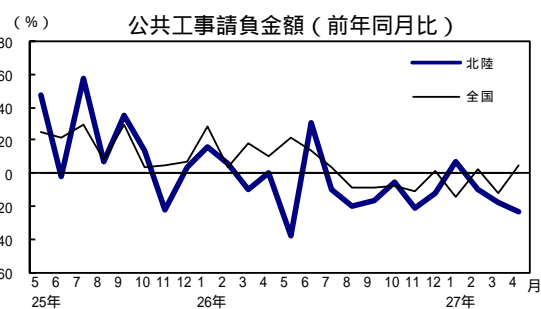
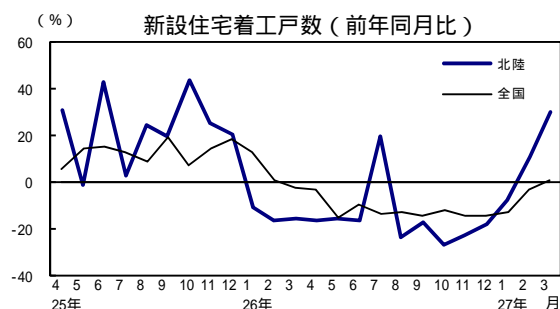
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は、大幅に増加している。

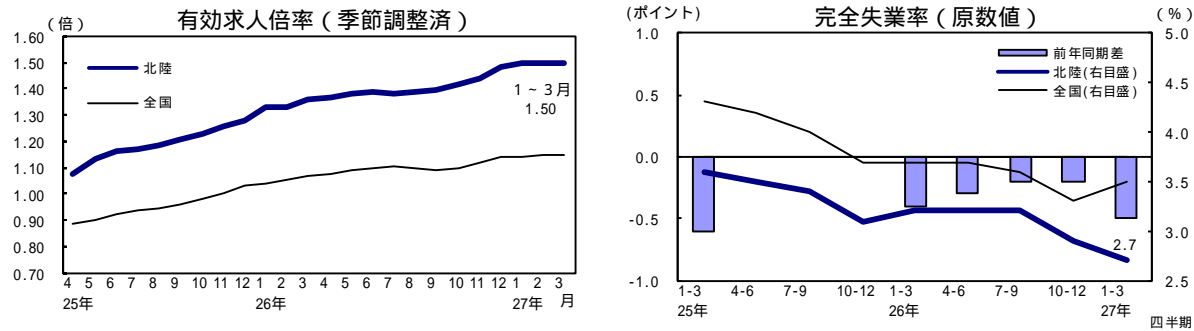
持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は、26年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は、着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

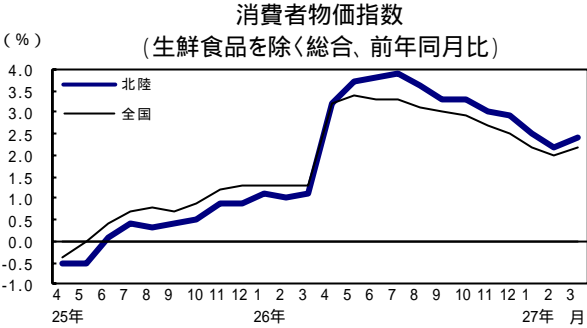


景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]
「これまで高校生を採用し続けてきた企業が、昨年の募集では全く取れなくなったという話があった。理由を聞くと、採用対象の学生がほとんど大企業の採用で決まってしまう、その企業が手を挙げるところにはいなくなっていたという話があった (新聞社 [求人広告])」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。
- (3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年4-6月	7-9月	10-12月	27年1-3月	27年4月
倒産件数	84	56	51	50	22
(前年比)	3.7	16.4	26.1	15.3	38.9
負債総額	204	84	90	99	755
(前年比)	27.7	7.8	2.1	27.8	706.6



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

- <現状>
・北陸新幹線元年として、想像以上に良い出足だ。3月から比べても、金沢市のみならず能登や加賀地区も売上を伸ばしてきた (一般小売店 [鮮魚])
- <先行き>
・話題性の高い商品に問い合わせが多く、需要も上がっている。生活家電、理美容商品は以前から需要が伸びていたが、今月に入りハイレゾオーディオ、ウェアラブル機器やスマートウォッチなどの趣味嗜好性の高い商品も問い合わせが増えている (家電量販店)。

